

平成 21 年 1 月 15 日

東北大学大学院理学研究科附属原子核理学研究施設
施設長 笠木治郎太 殿

日本放射化分析研究会
代表幹事 海老原充
(首都大学東京 大学院教授)

東北大学大学院理学研究科附属原子核理学研究施設の全国大学等における
共同利用・共同研究拠点施設化に関する要望

平素より日本放射化分析研究会の活動にご理解を頂き、感謝申し上げます。日本放射化分析研究会は放射化分析を利用する研究者が中心となって組織した研究会で、本年度で結成以来 13 年が経過し、会員も賛助会員 6 団体を含め、約 200 人を数えるまでになりました。会員の中には放射化分析の分析法としての研究開発に携わる者から、分析法を用いた周辺分野での応用研究を行う者まで、非常に幅広い分野の研究者が含まれます。放射化分析研究会はこのような分野横断的、あるいは学会横断的な会員構成を示す点に大きな特徴があります。

放射化分析には核反応を誘起させるための大型の施設が必要とされますが、近年研究用原子炉や加速器など、利用できる大型施設が少なくなっており、放射化分析研究会としては大変憂慮すべき事態と認識しています。放射化分析の中では中性子放射化分析が最も良く利用されていますが、それ以外にも光量子放射化分析や荷電粒子放射化分析が元素分析法として確立されており、各放射化分析法で定量できる元素に違いがあることからそれぞれ補完し合いながら実用分析に供されているのが現実です。このうち光量子放射化分析には高エネルギー電子線加速器が利用されますが、貴施設の電子線加速器は日本における光量子放射化分析の発展に非常に大きく貢献してきました。これは、貴施設内の教員の努力が反映されたものであることは言うまでもありませんが、それに加えて、貴施設が東北大学の学内共同施設でありながらも、全国の大学の研究者にもその利用の便を供し、しかも貴施設内の教員、職員が一丸となって学外利用に対して献身的な協力を惜しまなかったこともその結果に少なからず反映されているものと考えられます。

先般、文部科学省が全国の研究機関のなかから共同利用や共同研究を推進するに相応しい拠点研究機関を整備する計画を始めたとの報に接し、貴研究施設がその拠点施設化に最も適した施設でないかと即座に思い至りました。その理由は上記の、貴研究所が果たしてきたこれまでの研究面での貢献と共同利用推進の熱意が他の研究機関と比べて卓越していること、につきます。貴施設が放射化分析の発展・展開に寄与してきた実績を考えるにつけ、本研究会会員を代表して、貴研究施設が拠点研究機関として採択されることを切に希望する次第です。採択後には、光量子放射化分析の拠点としての運営・活動に対して、放射化分析研究会としても一層の協力を惜しまないことを申し添えます。